第１３７号／ふじのくに静岡

消防学校ニュース

令和５年３月号

救急科（第 32 期）

初期「積極的に学ぶ姿勢を」

令和５年１月 10 日（火）、新型コロナウイルス感染症の第８波が到来する中、救急科（第 32 期）がスタートしました。119 人の学生が入校しましたが、昨期同様、感染対策のためリモート形式での開始となり全ての学生が所属及び自宅からのリモート受講となる静かな門出となりました。県内初となる１万人弱の新規コロナウイルス感染者が発生している大変な状況下、学生は健康管理を徹底し、なんとか学ぼうとしていました。

リモート画面（各参加会場が映し出される）

消防学校
リモート室

しかしながら、コミュニケーションが取りづらいこともあり、講義が進んでも自発的な発言がされず、講師からは「雰囲気を感じられず、学生が何を考えているか分からない」との戸惑いの声もありました。

救急医学に初めて触れる身では、全てが難儀で難解な講義において、積極的に手を挙げるには勇気と度胸が必要です。その心境でたじろいでいる学生に対して、教官から何度も鼓舞し続けた結果、次第に目の色が変わり始め、徐々に気持ちや態度が前向きになっていくのが分かりました。

学生の質問
（一部）

駿東	身体部位呼称の前面で足の指
静岡	クラッシュシンドロームの要救
袋井	前十字靭帯断裂等の救急が
袋井	開放骨折時の止血方法ですか
浜松	緊張性気胸についてお聞きし
駿東	蘇生後の処置で、病院では体
浜松	2点、質問失礼します。事前
駿東	登坂先生の授業で、心筋梗塞
磐田	エピペンについて質問です。救
下田	緊急消防援助隊等で所属管轄
駿東	下肢を挟まれたときのクラッシ
静岡	薬剤投与(アドレナリン)の適用

中期「不明確を明確にする」

「学ぶこと」「知ること」の楽しさを知った学生達は、積極的になりました。残り僅かな時間でも、講師に対し何度も質問を投げ、自分の知識を向上させる意欲を前面に出し始めました。局所的な知識が広範的な理解に変化したことで、疑問に感じる範囲も広がり、それが質問という形で現れたのだと思います。学校では教材として「Google forms」による質問を受け付けていましたが、１月中旬から毎日質問が挙がるようになり、純粋で的確な質問の嵐に、主担当として嬉しさを感じました。それらを田島教官、永田教官の丁寧な対応により、学生の不思議が理解に変わり、さらに意欲が増大しました。これまでの人生において、解剖すら触れてこなかった学生は、病原の起因から症状まで、病態生理の一環のプロセスを理解したことで、新たな「知りたい！」が次々と生まれました。

最終「実践的技術を習得せよ」

２月 10 日（金）～２月 22 日（水）は、消防学校に入寮し実科訓練を中心とした講義が行われました。

初日の集団救急事故対応、テロ災害・多数傷病者訓練では、入校中の実践的大規模対応講習の学生及び合同聴講の県警職員、合せて総勢 150 人規模の開催となりました。冷たい雨が降りしきる中、感染防止衣を着装した救急科学生は、災害活動の３Ｔを中心に訓練に参加しました。

翌週からは、観察、資器材取扱い、ＢＬＳなど基本的な手技訓練から、ＪＰＴＥＣや内因性シミュレーションの応用訓練まで、様々な講義が行われました。講義には、各消防本部から派遣された先輩方が講師となり訓練を進めていきましたが、学生は臆することなく今まで学んだ知識を活かし、積極的に訓練に臨んでいました。自らが救急隊員として活躍するその日を見据えた積極的な姿勢が見られました。

（担当教官から）

119 番通報の 70％以上を占める救急要請。学生は、その要請に応えるため救急科に入校しました。この研修で救命のスキルを身につけましたが、あくまで最低ラインです。これからは、自ら考え行動し、能力向上に努めて行かなければなりません。怠れば、助けを求める住民の期待には応えられません。

私はこの研修で、学生に技能的なことを、直接教示することは出来ませんでしたが、その意志が芽生えるように心掛けました。人を救うには事前の努力が必要であり、それに気付けなければ成長はあり得ません。常に前を見据え、志をもって傷病者に手を差し伸べられる、素敵な救急隊員を目指してください。救急科 32 期生、全身全霊全集中で前進あるのみ！期待しています。

教務課主査　山田 友也（静岡市消防局から派遣）

消防職員専科教育
予防査察・危険物科〈第7期〉

災害の未然防止
予防の責務

３月１日（水）から３月 17 日（金）までの 13 日間、専科教育予防査察・危険物科を開催し、県内 16 消防本部から 48 人が参加しました。平成 28 年度に「予防査察科」と「危険物科」を発展的に統合し、今回で第７期を迎えました。この課程での教育到達目標は、査察・危険物行政の現状と課題を理解し、的確な査察要領の習得、違反対象物に対する是正指導ができること。また、危険物業務に関する専門的な知識及び技術を習得することです。

そのために、県内外から予防業務に専従している消防職員や予防行政の有識者、消防設備に精通している民間企業、危険物化学の大学教授など、予防業務のスペシャリストを講師に招き、幅広く専門的な教育を実施しました。

講義の様子

通常点検

避難設備実習

危険物燃焼実験

査察実習

合同聴講

（担当教官から）

この教育を通じて、学生に最も感じてもらいたいと考えたのは、「予防業務の責任と重要性」です。

そのために、県内外から講師をお招きし、違反処理に関する講義を複数盛り込みました。また、消防同意や予防査察・危険物に関する基礎知識など、実務で必要な教育を重点に構成しました。

集大成として実施した「査察実習」では、査察や違反処理に不慣れな学生もいる中で、お互いに協力しながら、是正指導に積極的に臨み、関係者に説明している姿を見て、次に繋がる良い訓練になったと感じました。

予防の目的は、火災の防止です。「火災を起こさず、人命を守り、災害に勝つ」ことが最も上策であり、予防でしかできない戦い方、予防によって救える命がたくさんあります。

修了生の皆さんには、今回の専科教育で得た知識、技術を所属に持ち帰り、大いに活躍されることを期待しています。いつでも前向きな姿勢で頑張ってください！

教育に御協力いただきました講師の皆様、誠にありがとうございました。今後とも学教教育に御理解・御協力のほどよろしくお願いします。

教務課主査　仲村　直樹（下田消防本部から派遣）

ホットトレーニング講習（第1回）

ホットトレーニングとは

訓練施設（コンテナ内）において、実際に木材を燃焼させ実火災に近い熱環境を再現させることにより、熱環境及び濃煙を体験すること、火災初期からの火災性状の燃焼過程を観察すること。

訓練目的

1　高気密、高断熱住宅が増え、屋内進入する必要が増えていること
2　フラッシュオーバー、バックドラフト等での負傷事故が減らないこと
3　水分補給・防火衣・防火手袋等の重要性を確認すること
4　火災の減少に伴い若年職員の現場経験不足、及び隊長クラス職員の若年下

上記を踏まえ、基礎的な火災性状の把握と消防活動による状況変化を体験的に確認し、安全管理を含めた現場活動に繋がる知識及び技術を習得することを目的とする。

※今年度は、１班 13 人で 16 班編成し、講習を実施した。

濃煙熱気実火災訓練施設

コンテナ内・木材（パレット）設定

進入前教官チェック

訓練実施

訓練終了後除染

【担当教官コメント】

近年火災件数は減少傾向にあり、喜ばしい傾向ではあるものの、その一方で若手職員の現場経験が絶対的に不足しているという現実もあります。そうした中で、住宅建材の変化により火災エネルギーの増大や気密性向上に伴う火災性状の変化、消火困難性の拡大などへの留意が必要となり、さらには消防職員は熱環境下での内部進入活動が必要となります。

今年度から開始したホットトレーニング講習（第１回）では 208 名の学生が訓練に参加しましたが、耐火構造区画内火災での屋内進入を必要とする現場を経験したことのない職員は多くいると思います。

１人でも多くの職員にホットトレーニングを体験していただき、現場活動に活かしていただきたいと思います。

教務課主査　望月　竜之介（志太消防本部から派遣）

消防団員特別教育 災害対策講習（第19回）

令和５年２月 19 日(日)に災害対策講習を実施し、県内の消防団から 63 人が参加しました。「安全管理」の観点を中心とした座学、ドローンの取扱いや土砂災害対応訓練など消防団として火災以外の自然災害に活かせるカリキュラムとしました。

（担当教官から）

参加者は、外部講師や教官からの「令和４年台風 15 号による水害」や「熱海市伊豆山土石流災害」等の体験談や反省点・教訓を真剣に聞いており、訓練終了後のアンケートでは今回習得した知識や技術を所属の団に還元したい旨の感想が数多く見受けられました。引き続き、地域防災力の強化に努めていただきたいと思います。

教務課主任　髙橋 謙一（県職員）

消防団員専科教育 警防科（第17期）

令和５年３月５日(日)に警防科を実施し、県内の消防団から 63 人が参加、放水器具取扱い訓練等を行いました。

（担当教官から）

警防科は火災対応に特化したカリキュラムですが、本県は南海トラフ地震の被害想定地域であることから、消防団隊のみで災害対応できる能力育成に力を入れました。火災現場で状況把握ができ、必要な消火方法の選択ができる。そして、延焼阻止と火災鎮圧を同時に目指すことを目標としました。また、人命救助を最優先に考えていただくため、要救助者有りの想定訓練を実施しました。真剣に取り組むその姿に、改めて消防団員の頼もしさを感じました。

教務課主査　田島　貴俊（富士市消防本部から派遣）

消防大学校レポート
幹部科（第 72 期）

Executive Department 72nd term
FDMC
Fire and Disaster Management College
From January 10 to February 24 , 2023

全国から集まった同期

実火災体験型訓練

指揮シミュレーション訓練

危険物火災

令和５年１月 10 日（火）から２月 24 日（金）まで、消防大学校の幹部科（第 72 期）に入校しました。

消防大学校は、総務省消防庁が設置する国の機関で、消防関係者に対し各種消防防災等に関する高度な知識、技術を習得するために教育を行っています。

幹部科では、消防行政全般に関する全国的な動向や消防関係法規、実務研究など幹部職員として組織運営に必要な幅広い知識を学びました。

また、現場指揮能力を養うため、各種災害現場を想定した部隊運用訓練・指揮シミュレーションや多くの人員や車両を用いた大規模で実践的な多数傷病者対応指揮訓練も行いました。

この教育で貴重な体験、経験を通し多くの知識・気付きを得ることができました。

消防大学校での出会いと多くの学びを、消防学校や所属に還元できるよう努めて参ります。

教務課主査　飯塚　誠（静岡市消防局から派遣）

感謝状贈呈

令和５年２月 27 日(月)、文化シヤッターサービス株式会社中部サービス支店様に対し感謝状を贈呈しました。同社は、平成６年度から長年に渡り本校初任科及び警防科のシャッター開放訓練において、無償でシャッターを提供するなど実践的な教育訓練ができる環境整備に貢献されました。

本年度までに初任科を中心に約４千人の消防職員が受講し、受講した学生からは「実際に切断する機会がなく大変良い経験となった。」、「構造について深く理解できた。」などの意見があり、大変有意義な訓練となっています。

施設紹介（都市型捜索救出訓練施設）

土砂埋没救助訓練施設
※全国訓練用に、家・車を設営

瓦礫救助訓練施設

この施設は、令和４年 11 月 12 日（土）に実施された「第６回緊急消防援助隊全国合同訓練」のために設置されました。南海トラフ地震により発生する都市部での災害を想定し、２種類の災害現場として、土砂埋没救助訓練と瓦礫救助訓練に対応できるようになっています。

昨年度の救助科では、興津埠頭の遊休地を借用し、そこへ出向き災害現場を設営し、土砂災害対応訓練を実施していましたが、今年度は、この施設を活用することで、効率的な訓練が実施できました。

異常気象の影響もあり、今後も昨年度の熱海のような大規模な土砂災害がどんなところでも発生する可能性があります。この施設は、その対応のための教育訓練の効果的なツールとなっていきます。

離任教官表彰状授与式

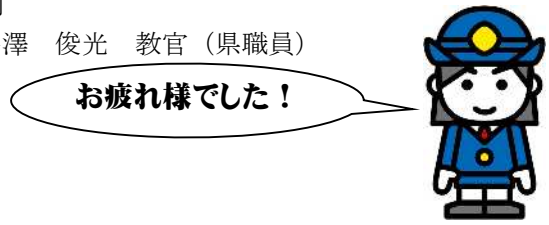
厳しい教育訓練、ありがとうございました

令和５年３月 24 日（金）この３月に所属消防本部（局）へ帰任する４名の教官の「離任教官表彰状授与式」を行ないました。学校長から、県内の消防職員や消防団員等の指導育成のための尽力に対し表彰状が授与されました。また、県職員の谷澤教官が定期異動で当校を離れることとなりました。

離任教官の皆様、本当にありがとうございました。県内の消防力向上のために、常に全力で、そして真摯に取り組んでいただきましたことを感謝いたします。

新天地においては、消防学校で培った技術や経験、大きな人間力を十二分に発揮し、所属の消防職員のお手本として頑張っていただきたいと思います。皆様の御健勝をお祈り申し上げます。

後列の右から
　田島　貴俊　教官
　（富士市消防本部から派遣）
　竹ノ内　創　教官
　（駿東伊豆消防本部から派遣）
　埴淵　茂樹　教官
　（浜松市消防局から派遣）
　早川　淳　教官
　（磐田市消防本部から派遣））
前列
　谷澤　俊光　教官（県職員）



離任教官からのコメント

静岡県消防学校赴任中に、協働した教官方、外部講師、学生から多くの刺激を受け、知識、技術を学ぶことができ、大きく成長できたことを実感しています。振り返ってみると、不安や大変さよりも楽しさが大きく勝っていたと思います。派遣させていただいたことを感謝するとともに、３年間で得た財産を所属の仲間と共有し、これからも職務に邁進していきたいと思います。３年間で出会えた方々に感謝いたします。ありがとうございました。

教務課主査　埴淵　茂樹（浜松市消防局から派遣）

憧れていた教官として勤務することができ早３年が経ちます。コロナに翻弄された３年間でしたが、間違いなく人生において最も充実した、刺激的な日々でした。素晴らしい教官たちと共に、創意工夫をしながら学校教育の運営や訓練に携わることができ、大変貴重な経験をさせていただきました。また、講師の方々や入校した学生たちとの出会いも私の財産となりました。皆様に感謝を申し上げると共に、『初志貫徹』の志を忘れずに、今後の消防人生の糧にしていきたいと思います。

教務課主査　竹ノ内　創（駿東伊豆消防本部から派遣）

消防人となって 20 年が過ぎましたが、一番濃い時間を過ごした３年間となりました。人の成長を間近で体感することができ、別れを惜しみ涙する貴重な経験は人生の糧となりました。派遣してくださった所属、共に苦労をした教官、学校職員の方々には感謝しかありません。ただ、一番お礼を言いたいのは携わった全ての学生です。人として、消防人として成長させていただき感謝しております。成長と共に増した職責と真摯に向き合い、今後も敢為邁往の精神で頑張りたいと思います。

教務課主査　田島　貴俊（富士市消防本部から派遣）

３年前、消防学校教官に派遣が決まり不安と緊張していたことが懐かしく感じます。着任後は、講師（支援隊）、学生、教官方から多くの支えと気づきを得て、自分自身が成長したと実感しています。他では経験できない大変貴重な時間を過ごし、楽しい思い出しかありません。派遣中に得た知識等を活かし、今後も職務を遂行していきたいと思います。派遣期間中に出会った方々、御支援いだいた方々、全ての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

教務課主査　早川　淳（磐田市消防本部から派遣）

県職員である私が消防学校教官の記章を拝受した日から、早３年が経過しました。この間に出会った学生たち、外部講師の皆様、そしていつも支えてくれた関係機関の方々に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。消防の世界に触れる機会を得たことや、教育訓練を企画・立案し、実行するチャンスに恵まれたことなど、学校では数々の貴重な経験をさせていただきました。本校に入校してきた学生たちと同様に、一つ一つの出会いや積み重ねを大切にし、職務に励みたいと思います。

教務課主査　谷澤　俊光（県職員）

高倉校長から一言

桜から梅まで。興津の季節変化を感じながら公務員生活最後の１年を過ごさせていただきました。

年度前半は、あどけなさの残る消防学校１年生の初任科生達が技術、知識、体力を身につけようと歯を食いしばる姿を目の当たりにし、「校長として何か返してあげたい。」と新たな取り組みにチャレンジしました。（新人消防士の主張、プロスポーツチームからの外部講師選任、メディア連携、初任科生と校長とのグループ面談、初任科生知事表敬訪問など）

年度後半は、専科教育を受けに来る先輩方に各消防で実践を積んだきたのであろう、逞しさを感じる反面、昨今、自然災害や国際紛争といった予想・訓練経験を超えるであろう現場が見える消防という仕事の過酷さ、消防学校の役割の大きさを改めて思う時間となりました。

今年度、県内消防本部の消防長クラスで退職・異動という区切りを迎えられるのは、静岡市・秋山義隆氏、浜松市・猪又正次氏、駿東伊豆・佐藤潤氏、熱海市・植田宜孝氏、富士山南東・加藤浩昭氏、富士市・栗田仁氏、御前崎市・早田和弘氏、袋井市森町・神谷正祐氏、磐田市・伊藤秀勝氏と伺っております。この３年間程は、救急はコロナウイルスに翻弄され続け、熱海土砂災害、台風による浸水被害など被災現場を仕切る上でのご苦労も多々あったかと思います。皆様、大変お疲れ様でした。

今後、次のステージでの益々のご健勝・ご活躍をお祈り致します。

私ごとですが、先月、実父の一周忌法要を行いました。生前は、わずかな期間でしたが、在宅介護を行い、いわゆる終活、人生の締めくくり方を考えさせられる機会ともなりました。

一般的に平均寿命は 80 歳を超えていますが、健康上に問題なく日常生活を送れる健康寿命との差は約 10 年あるとされています。

自分の場合、県の再任用で公務員生活の終盤に経験を積ませていただいたスポーツ関係の職務に再度携わる機会をいただきました。（スポーツコミッション）

ついては、静岡県民の皆さんの健康寿命が少しでも延伸されるよう、子どもからお年寄りまでがスポーツに親しみ健康づくりができる環境づくりに力添えできればと思っております。

昨年、今春小学校に進学する孫からブロックの消防自動車をプレゼントされました。

2019 年 9 月ラグビーW杯エコパでの静岡ショック記念ミニモニュメントとともに、これからも机上に置いて頑張っていきます。

本ニュースをお読みいただいた関係の皆様、１年間お付き合いの程、誠に有り難うございました。

編集・発行/ 静岡県消防学校　〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190　FAX 054-369-1197　E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内･紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校　検索